



海景色の万華鏡 庄内半島へ

香川県西部、北西方向に瀬戸内海へ突き出した三豊市の庄内半島は、夕日の美しさでも知られる絶景スポット。くるくると表情を変える海の眺めに、心洗われるひとときです。



鴨之越と丸山島



ウミホテル

瀬

戸内海のパノラマビューを求めて最初にやって来たのは、庄内半島最高峰の紫雲出山。駐車場周辺から山頂にかけて点在する展望台を巡ってみると、方角によってがらりと違う風景が広がることに驚かされます。

半島の東側は、塩飽諸島の多島美。山頂展望台から正面を望めば、天気の良い日は中国地方まで見渡せるほど奥行きのある海景色。一方、西側はどこまでもまっすぐな燧灘の水平線。美しい夕日が有名な父母ヶ浜から観音寺市にかけてのびる海岸線も一望できます（右上写真）。夕暮れ時には、海に沈んでゆく太陽の光を受けて、水面が金色に輝きます。

「晴れた日もきれいです。海の上を雪雲が流れてゆく様子を見た時は感動しましたね」と、三豊市観光協会事務局長の成行公雄さん。紫雲出山は桜の名所でもあり、満開の桜が瀬戸内海のブルーに映える春の眺めは、まるで



父母ヶ浜の夕日



成行さん

一枚絵のよう。四季折々の変化も魅力の一つです。一番近くに見えるスクリー型の大島影は、古くから海上交通の要所として栄えた栗島。明治時代には日本初の国立海員学校が建てられ、多くの優れた人材を海運界に輩出してきました。香川の海の歴史にゆかりの深い栗島は、今はウミホテルの名所としてにぎわっています。

紫雲出山を下り、海岸線に沿って仁



エリア 三豊市

問

三豊市観光協会
0875-5619121
検索

尾町の方へ南下していく途中、夕日スポット・鴨之越へちよっと寄り道をしてみました。同市には浦島伝説が残り、鴨之越は浦島太郎が亀を助けた浜と伝えられています。干潮時には対岸の丸山島に歩いて渡れるほど遠浅。白い浜辺に立てば、時が止まったかのような静けさに包まれます。

この穏やかな海を越えて、どこか遠くへ行ってみよう。そんな思いを揺さぶる美しい海景色は、浦島伝説のまちならでは味わいかもれません。

地域全体、県全体の意識向上を

ちちぶの会

平成8年、父母ヶ浜の保護・保全を目指す数人の有志たちが立ち上げた「ちちぶの会」は、毎月1回、第1日曜日の朝に海浜清掃を行っています。海を大切にしたい気持ちがあれば誰でも参加できる気軽さもあって、今や会員数は仁尾町民を中心に60人以上。「地域全体の意識が変わってきた」と、会長の鴨田隆司さんも手応えを感じているようです。



ごみは川を伝ってまちから海に流れ、波に乗って浜へ流れ着きます。「だからこそ、海のごみを減らすには企業や県全体の意識改革が必要」と、事務局長の塩田健治さん。「子どもたちに美しい海を残すのは大人の責任」「夕日の素晴らしさは財産。この自然を大切にしたい」と、会員の森一恵さん、菅磯夫さんも声をそろえます。

浜辺を舞台にしたイベントなども開催したいと意欲的な同会。数々の困難を乗り越えて仁尾の海景色を守り続けてきた活動の根底には、身近な美しい海への思いが息づいています。

